

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員 水山 洋輔

実施月日	令和6年8月1日(木)～8月2日(金)		
実施時間	1日 13:30 ～ 15:30 2日 10:00 ～ 12:00		
調査先	綾町役場、(有)松井農園、宮崎県総合農業試験場茶業支場		
調査所在			
調査の目的	有機野菜の取り組みについて		
調査先担当者	①綾町役場 農林振興課 有機農業振興係 係長 森本 隆太氏 綾町議会事務局 局長 高松 俊秀氏 (有)松井農園 松井道夫氏 ② 宮崎県茶業協会 みやざき茶推進会議 事務局長 吉留 浩氏		
内容・結果等	8月1日(木) 13:30 ～ 16:30		
	視察内容：有機野菜の取り組みについて		
	8月2日(金) 10:00 ～ 12:00		
	視察内容：みやざき茶振興の取り組みについて		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	会場費		
	講師謝礼		
	出席者負担金		
	旅費	バス	3,770
	旅費	電車	31,800
	宿泊費	コンフォートホテル宮崎	8,200
	合 計		43,770

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

No.1

嬉野市議会議員

水山 洋輔

実施月日	令和6年8月1日(木)		
実施時間	13:30 ~ 15:30		
調査先	綾町役場		
調査所在	宮崎県東諸郡県綾町南俣515 綾町役場 議会第一会議室		
調査の目的	有機野菜の取り組みについて		
調査先担当者	①綾町役場 農林振興課 有機農業振興係 係長 森本 隆太氏 綾町議会事務局 局長 高松 俊秀氏		
内容・結果等	(内容) 綾町の有機野菜の取組について 町全体で有機野菜の生産に注力されており、昭和48年に「健康で住みよい町づくり」の一環として、安全で新鮮な野菜による食生活をテーマに、家庭での一坪菜園の推奨がスタート。昭和63年に「自然生態系農業の推進に関する条例」の制定。平成13年に町として有機JAS認証登録機関の認証所得。町独自の農産物認証制度を設けてあり、生産される露地野菜の8割以上が有機野菜。また生産された野菜の販売は、役場に隣接する直売所で購入することができる。直売所の売上は、令和4年度の実績で農産物が1億6,395万円、加工品が1億5,318万円を売り上げている。ふるさと納税については、約4,000万円程度との事。直売所に出荷される方は高齢者の方が多く、現役世代の生産者とは、出荷する市場のすみ分けができる。これからの課題として、担い手の確保、有機野菜の需要に対する供給力不足を挙げられており、新たな取り組みとして綾オーガニックスクールを開始。委託事業として民間事業者による担い手育成に取り組んでいる。 (まとめ) 綾町は自然をテーマにまちづくりを推進されている印象を受けた。綾町憲章には、自然生態系を生かし育てるまちづくりを掲げられており、その考えの基に自然生態系農法推進に関する条例や照葉樹林を保護するための景観条例などがあり、今回視察した有機農業の取り組みは半世紀以上をかけて町全体で取り組まれていた。また平成24年には、照葉樹林帯を「綾ユネスコエコパーク」として登録されており、自然と農業を地域ブランドとして構築をされている。有機野菜については、生産者の高齢者や生産体制の強化などの課題もあるなかで「綾オーガニックスクール」として、新たな就農者の育成に努められおり、有機JASを認証された農地も増えてきており、農地の面積は、令和5年の時点で約25haとの事。地産地消の推進として町内の小中学校では有機給食の取り組みもされており、食育の面でも有機野菜の推進を図られていた。		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	会場費		
	講師謝礼		
	出席者負担金		
	旅費		
	旅費		
	宿泊費		
	合 計		0

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

No.1

嬉野市議会議員

水山 洋輔

実施月日	令和6年8月1日(木)		
実施時間	13:30 ~ 15:30		
調査先	(有)松井農園		
調査所在	〃		
調査の目的	有機野菜の取り組みについて(綾オーガニックスクールの現地視察)		
調査先担当者	綾町役場 農林振興課 有機農業振興係 係長 森本 隆太氏、(有)松井農園 松井道夫氏		
内容・結果等	(内容) 綾町の有機野菜の取組について(綾オーガニックスクールの現地視察) 有機農業の生産者育成と栽培技術の継承を目的に令和5年6月から開校。令和5年は、1名、令和6年は3名が入学され現在は、4名の方が研修をされている。研修期間は2年間。事業は町が運営事業者(合同会社アヤオーガニックワークス)へ委託。委託事業者の構成メンバーは、それぞれの方が農業従事者であり、自分の仕事をしながら研修生への指導が行われている。(委託先のメンバーは、4名のうち2名は移住者で新規就農者、1名も地元の方が新規就農者)また、オーガニックスクールでは、農地の確保にも努められており、遊休農地となった土地を確保し、町が認定している有機JASに基づく土づくりから行っている。受講生は、研修期間中に野菜の生産を行い、卒業後すぐに、研修期間中に生産した野菜を販売して収入を得られるようにするために、委託事業者のメンバーが持つ販売ルートへの出荷など、生産から流通までのフォロー体制を計画されている。 (まとめ) 綾オーガニックスクールの取り組みとしてまず感じたことは、指導する側の構成メンバーの中に移住者で農業従事者の方がいることは、新規就農者の方にとっては、よき相談者や目標になるのではないかと感じた。綾町の支援も充実しており、格安での住宅支援や農機具の貸し出し(綾町機械利用組合)や県の新規就農者支援制度など負担を減らす措置をされている。スクールの代表の松井氏は、これまでも有機農業をあきらめる人を見てこられており、まずは新規就農者をバックアップする窓口としてスクールを運営して、10年かけて20人30人と就農者を増やして行きたいと言われてた。自分たちの生産ノウハウを惜しげもなく伝え育成されており、農業の担い手づくりして今後の展開にも注視して行きたい。		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	会場費		
	講師謝礼		
	出席者負担金		
	旅費		
	旅費		
	宿泊費		
	合 計		0

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

No.1

嬉野市議会議員

水山 洋輔

実施月日	令和6年8月2日(金)		
実施時間	10:00 ~ 11:30		
調査先	宮崎県総合農業試験場茶業支場		
調査所在	宮崎県総合農業試験場茶業支場 3階会議室		
調査の目的	みやざき茶振興の取り組みについて		
調査先担当者	宮崎県茶業協会 みやざき茶推進会議 事務局長 吉留 浩氏		
内容・結果等	(内容) みやざき茶振興の取り組みについて 茶業支場での研究内容についての説明。①新香味茶(ウーロン茶等)の生産の際に、手作業で行う萎凋(いちょう)工程の省力化と品質安定の取り組みとして、製茶機メーカーと製茶機械【ドラム式萎凋機】の共同開発。②有機栽培茶生産技術の取り組みとして、スプリンクラー散水によるクワシロカイガラムシ防除技術の開発、アメリカや台湾向けの輸出対応型IPM技術の開発、米国、EU向けの煎茶、釜炒り茶の輸出用防除歴の作成。③試験場では、これまでに15品種を育種されており、近年は極早生品種や病害中に強い品種の育成、品種登録をされている。輸出需要は、有機栽培のニーズが高く、有機JAS格付け実績は増加傾向との事。令和5年の実績としてEU、英国向けの輸出量は、913tに対し有機栽培は、707tの実績との事。釜炒り茶の取り組みとしては、みやざき茶推進会議において釜炒り茶のブランド認証審査要領を作成し、「釜王」として認証する取り組みを実施。釜炒り茶の知名度アップと販路拡大を図るために平成24年からブランドづくりをされている。 (まとめ) 茶業支場では様々な品種のお茶を育種されており、煎茶、釜炒り茶などの適正を学ぶ事ができた。また支場と製茶機メーカーとの機械装置の共同開発においては、農林水産省の「農業新技術2017」に選ばれており、県北釜炒り茶の産地では、機械の導入によりウーロン茶等の生産面において省力化につながった事例を紹介された。輸出面では有機栽培の茶のニーズが高く、国が策定した「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」において、本市のうれしい茶グローバル推進協議会を含む31事業者が選ばれていることから、今回の調査をきっかけに本市での茶業についても学び直したいと感じた。		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	会場費		
	講師謝礼		
	出席者負担金		
	旅費		
	旅費		
	宿泊費		
	合 計		0